リソースナース通信

リソースナースとは、患者さんの問題や職員の業務上の問題に対して、専門的な知識や技術で、問題解決を支援する役割を持つ看護師です。
今年度より、認定看護師４名と特定行為看護師１名が活躍しています。
主な活動として、勉強会の開催や解決困難な事例を一緒に検討すること、職員だけでなく患者さんやその家族からの相談に応じ支援する活動をしています。今後皆さんに活動が周知され、相談できる存在になれるよう活動を継続して行っていきます。
今回は、私たちの自己紹介を兼ねて、それぞれが専門とする分野や活動内容を知ってもらい、私たちが共通して目指していることを伝えたいと思います。

自己紹介と専門分野

手術室　中島和香子

特定行為看護師（術中麻酔管理領域）

専門分野　麻酔管理（呼吸器、輸血関連）、疼痛管理（PCA、硬膜外カテーテル管理）

術中麻酔管理領域の特定行為研修を修了しました。必要時、並列麻酔のお手伝いを行っています。また今年度から術後疼痛管理チームを麻酔科臼倉先生、薬剤課中村さんと発足しました。術後疼痛管理に関わらず、周術期におけるちょっとした疑問点などありましたらお気軽に声をかけてください。

3F　谷口博紀

摂食嚥下障害看護認定看護師
特定行為看護師（水分・栄養）

専門分野　口腔ケア、嚥下評価、嚥下訓練、低栄養・脱水予防、誤嚥性肺炎予防など

食事は栄養補給だけでなく、喜びや楽しみ、コミュニケーションの場にもなります。しかし、嚥下障害のある患者さんにとっては誤嚥や窒息といったリスクも伴うため、慎重な対応が必要になります。安全、安心に食事を摂取するために、嚥下機能の評価、食事形態や食事姿勢の調整、口腔ケアの方法など、皆さんと一緒に検討していきたいと思っています。３階に所属していますが、毎週水曜日の午後に NST ラウンドで各階に顔を出すことがあります。摂食嚥下関連や栄養管理について気になることがあればいつでも声をかけてください。

6F　後藤陽介

呼吸器疾患認定看護師
（慢性呼吸器疾患看護分野）

専門分野

COPD や喘息、間質性肺炎など呼吸器疾患を抱える患者さんの
疾患管理や生活調整など

慢性呼吸器疾患看護は、COPD や喘息、間質性肺炎など呼吸器疾患を抱える患者さんの疾患管理や生活調整などが専門です。
在宅酸素療法をおくる患者さんの生活指導やセルフマネジメント支援、吸入がうまく行えない患者さんの吸入デバイスの選択、酸素デバイスや呼吸器の選択、人工呼吸器の設定について、息切れが少なくなる生活の仕方、禁煙に取り組みたい人への援助を一緒に考えていきたいです。
慢性疾患は、状態が悪くなったり良くなったりを繰り返しながら徐々に全身状態が悪化していきます。治療により症状が改善して楽になったと思っても元の身体に戻ることはなく、息切れや呼吸苦と付き合い、折り合いをつけながら生きていかなくてはいけません。
ライフストーリーを理解しながら、その人がその人らしく暮らしていけるように支援していきたいと思います。

3F　黒田洋子

認知症看護認定看護師

専門分野

認知症患者さんのケアや環境調整、コミュニケーション方法、
興奮や落ち着かない時の対応方法、食事支援、家族への指導など

認知症による症状は多様で、特に徘徊や暴言・暴力などの症状は対応が困難なことがあります。対応に困った職員がストレスを抱えてしまうことや、事故防止のために身体拘束や薬剤に頼らざるを得ないこともあり、ケアの質、患者の生活の質が低下してしまうことがあります。
認知症の人の周辺症状には、隠れた思いやニーズがあり、本人のライフストーリーを知り対応することで症状が緩和されることがあります。
治療が優先される中で、本人に寄り添い、自宅でできていた能力を入院中も変わらず行えるように支援できることが必要です。毎週火・水曜日に定期的なラウンドを行っていますが、迅速な対応が必要であれば電話等で連絡をしていただければすぐに対応を行います。
認知症者の視点から本人がどのようにしてほしいか、一緒に考えるために気軽に相談してください。

外来　山﨑松美

慢性病看護
看護相談
（糖尿病・虚血性心疾患・心不全など）

専門分野

糖尿病、虚血性心疾患、心不全、脳卒中、脳卒中のリハビリテーション、慢性腎臓病など

慢性病看護を専門に、大学で教育や研究に携わってきました。また、糖尿病療養指導士として、当院外来で療養相談をしていた時期もあります。現在は、外来で糖尿病患者さんや心不全患者さん、虚血性心疾患患者さんなどの療養相談をしています。
慢性疾患を持つこと、そしてその治療を継続していくことは、身体機能低下などの身体面だけではなく、精神心理面や社会面へも影響を及ぼします。慢性病看護では、これら全てを患者さんの主体的体験から捉え、自らの力で問題を解決していくことを支援します。つまり「慢性疾患とともに生きる※」ことを支援します。
特に、病気の受け止め方、病気や療養生活がもたらす孤独感、負担感、様々な喪失（役割、生きがい、経済面など）、中でも自己の存在価値をも揺るがす喪失体験などが、患者さんの療養に向き合う力を低下させてしまう（パワーレスネス）ことも多いです。それらを顕在化させ、解決を支援するエンパワーメントアプローチを得意としています。
療養に関する知識やスキルが必要な方はもちろんですが、療養に向き合えていないなど、何らかの引っかかりを感じる方がいらっしゃいましたら、是非、お声かけください。

※慢性疾患とともに生きる
　生涯にわたり、病気と向き合い、病状の進行や治療の変更に対して、心理的・社会的にも対応しながら生活を調整し、ライフサイクル上での課題を達成していくこと

6F　根上剛

感染管理認定看護師

専門分野

感染症患者さんの対応、療養環境の調整、尿道留置カテーテルなど
デバイス関連の感染防止対策、手指衛生実施状況の評価、
抗菌薬適正使用、職業感染防止など

感染症に罹患した患者さんの対応や入院環境の調整、尿道留置カテーテルなどデバイス関連感染や手指衛生実施状況などのサーベイランス、抗菌薬の適正使用、職業感染防止など感染に関わる仕事が専門です。これまでは所属病棟での活動が主でしたが、今後は広い視野を持ち、所属病棟だけでなく横断的に組織全体の院内感染防止活動を行っていきたいと思っています。現状を把握し、皆さんと一緒に感染対策を考えていきたいです。

Check!

私たちが目指すところ

臨床の現場では、さまざまな問題に直面しながら皆さんも日々業務に従事していると思います。私たちも同様に、日々業務を遂行する上で問題に直面しながらも、その問題の背景には何があるのかを専門的な立場から考えています。
私たちは長期研修や専門技能を習得し、資格を得ましたがまだまだ経験が浅い部分も多くあります。ですが持っている専門資格を活かし、皆さんと起こっている問題を一緒に考え、個々の成長だけでなく、組織としての成長を皆さんと実現したいと考えています。
今は病院内での活動が主ですが、いずれは各専門分野の看護師が活躍できる外来患者さんを対象とした看護外来の立ち上げを計画しています。
今後も皆さんと問題を一緒に考え、やわたメディカルセンター全体を盛り上げていきましょう。
よろしくお願いします。